

馬たちのサポーター



ばん馬のケアに欠かせないのが、装蹄所と診療所。帯広競馬場のきゅう舎地区に開業するプロフェッショナルの仕事場をのぞいてみました。

装蹄師

きゅう舎地区内に開業する装蹄所のひとつ「山晃」の3代目。レースですり減った馬の蹄鉄の付け替えのみならず、ばん馬特有の蹄の疾患の対策にもあたる。



たかはし さだひろ
高橋 定裕さん

「ばん馬は体重が重いので、蹄の疾患にかかりやすいんです。装蹄師は職人と思われがちですが、装蹄療法の知識も学び、馬の歩き方、姿勢、蹄鉄の減り方などから判断して、その馬に最適な蹄鉄を作っています。治りづらい蹄の病気が、試行錯誤してうまく治った時は嬉しかったですね」



それぞれの馬に合わせて手作りで蹄鉄を作り上げる。強い馬ほど足のトラブルが多いので気を使うという。



1日4～5頭の馬に装蹄。この日やってきたのは新馬。新馬は緊張しているのでも、蹴られそうになることも。「サラブレッドに比べるとばん馬は動きが遅いので、よけられます(笑)」

獣医師

平成27年5月から、きゅう舎地区内で「十勝ばんえいクリニック」を開業。チームを組んで24時間体制でばんえい競走馬の診察や治療にあたる。



あらい ひさお
荒井 久夫さん

「多い時は1日30頭が訪れ、まるで野戦病院のよう。蹄や歯の病気、風邪などが多いですが、一番気を使うのは腹痛です。馬の腸は複雑なので、詰まったりねじれたりしやすく、重篤化することがあるんです。もともと馬が好き。真面目に走る姿も好きですが、牛と比べて治療の成果がはっきり現れるところがいい。自分の性に合っていると感じます」



チームで診療にあたる「十勝ばんえいクリニック」のスタッフ。左から診療補助の高梨康明さん、経理担当の荒井生子さん、荒井獣医師、事務全般を担当する遠藤成子さん、診療補助の梅津充宏さん、福田敏昭さん。



蹄の治療に訪れた馬には、炎症を抑える局所治療を施したのち、全身治療として鎮痛解熱剤を投与。馬の扱いに慣れたテクニシャン(診療補助)のサポートが欠かせない。

ばんえい競馬の応援団

特定非営利活動法人とかち馬文化を支える会

ばんえい十勝発足と同時期に設立された「とかち馬文化を支える会」は、ばんえい競馬をファンの目線で応援するとともに、ばんえいの原点である十勝の馬文化を全国に発信しています。

ばんえい競馬の原点、十勝の馬文化の継承に尽力

NPO法人「とかち馬文化を支える会」が設立されたのは平成十九年。ばんえいが廃止の危機を乗り越え、再出発を果たしたこの年、同会は、ばんえい存続のために熱い声を上げ続けてくれた全国のファンとそのネットワークを今後につないでいくことを趣旨に創立されました。「ばんえい競馬の応援団」とも言えますが、活動はそ

れだけにとどまりません。会の名称が表すように、北海道十勝で育まれてきた馬文化を全国に向けて発信し、その継承・振興に力を尽くすことを掲げています。かつての十勝の暮らしは、馬耕、馬車、馬そりなど「馬による牽引」に支えられていました。その姿を今に伝えるのが「ばんえい競馬」。馬文化なくしてばんえいは生まれず、ばんえいなくして馬文化は語れない。この基本理念のもと、多彩な活動を続けています。

ばんえい競馬の振興を促す多彩なイベントやグッズ販売

同会は生きた歴史教材である「ばんえい競馬」支援のため、帯広競馬場を拠点に、広く道内外で十勝の馬文化の周知活動を展開。特にJRAの協力を得て行う首都圏でのイベントの開催や広報活動では大きな反響を得ています。また、十勝各所の小・中学校

に出かけて行う「馬の出前授業」、一般市民を対象とした「馬学セミナー」、福祉施設利用者に向けた「ふれあい体験」などの教育福祉事業、かつての労働馬の作業を復元し、未来に伝承するための「馬耕伝承プロジェクト技術」、さらに過去の馬文化を聞き取り調査

し、内容をまとめた「馬文化新聞」の発行など、さまざまな角度から馬文化への理解を促す事業を展開しています。

活動を資金面で支えるのは、全国に広がる会員約三百人の支援と、オリジナルばんえいグッズの販売です。ばん馬グッズは、活動費支援を目的として開発されましたが、現在では帯広競馬場のお土産として国内外から訪れるお客様に愛され、さらに持ち帰られたグッズが各地で広報に役立つなど、予想を超えた効果を生み出しています。ファン目線からばんえいを応援し、帯広競馬場を「十勝の馬文化の発信基地」にしよう。そんな思いが活動の原動力となっています。



1 帯広競馬場とかちむら農園で行われた「馬耕デモンストレーション」。2 十勝管内小学校での馬の出前授業にて。ミルキーの馬そりが子どもたちに大好評。3 東京競馬場での「ばんえいイベント」では、ターフビジョンにレースの動画を映し出しながら、ばんえい競馬の解説を交えたトークショーを実施。

関連6団体をとりまとめる「ばんえい競馬振興連絡協議会」



平成22年に発足した「ばんえい競馬振興連絡協議会(川田章博会長)」は、十勝馬事振興会、(一社)ばんえい競馬馬主協会、ばんえい十勝騎手会、ばんえい十勝調教師会、NPOとかち馬文化を支える会、ばん馬と共に地域振興をはかる会(事務局・帯広商工会議所)の6団体で構成。各団体の活動を連携させ、ばんえいの振興と十勝の馬文化の継承を図っています。一大イベントに成長した「とかちばん馬まつり」も、「ばん馬と共に地域振興をはかる会」が主催し、同協議会が共催。経済界や地域住民も加わって、皆でばんえい競馬をサポートするという意識づくりに貢献しています。